



新潟県における縄文時代後晩期の低湿地集落と生業

荒川 隆史（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）

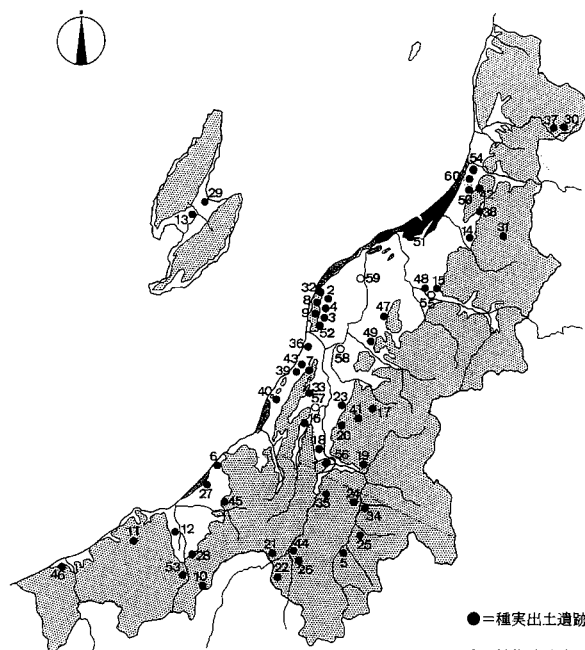
1 越後平野の遺跡立地

ここでは調査が進んでいる越後平野の遺跡について述べる。越後平野における遺跡分布は、砂丘型・堤防型・埋没丘陵型・沖積地埋没型の大きく4つに分類できる〔寺崎2001〕。砂丘型では、鳥屋式土器の標式遺跡である豊栄市鳥屋遺跡（晩期後葉）など阿賀野川以北に後晩期の遺跡が多い。堤防型では、粘土痕土器の確認が報じられた栄町長畑遺跡（晩期終末）や多数の墓坑が検出された田上町保明浦遺跡（晩期後葉）、木柱根が出土した弥彦村蒲田遺跡（晩期後半）など信濃川周辺の調査が進んでいる。埋没丘陵型では、88本の木柱根や「トチ塚」が検出された巻町御井戸A遺跡（晩期前葉～後葉）、堅果類の水さらし場と推定される木組み遺構が見つかった出雲崎町寺前遺跡（後～晩期）などトチノキ種実の灰汁抜き加工に関する遺跡がある。沖積地埋没型では、加治川村青田遺跡（晩期終末）で大規模集落の調査が行われたほか、中条町野地遺跡（後期中葉～晩期前葉）においても大規模集落が検出され、低湿地集落の様相が明らかになりつつある。また、地表下約5mから不時発見された新発田市轟貝塚（中期末～後期初頭）も生業を検討する上で重要である。

2 低湿地集落の生業

青田遺跡は沖積地を流れる河川の両岸に掘立柱建物が構築された集落で、掘立柱建物58棟・土坑79基・堅果類廃棄範囲59か所などが検出された。遺物は木柱根428本・草壁材・丸木舟・櫂・釜状編物・赤漆塗り糸玉などの多数の有機質遺物が出土した。掘立柱建物は、柱根の年輪年代学的解析から1時期に8～9棟構築されていたと推定される。また、クリ材の成長スピードが自然林に比べ早いことがわかり、花粉分析結果などを総合すると集落周辺に人為的にクリ林が形成されていた可能性が高まった。堅果類廃棄範囲では、1か所に推定7,000個を超えるクリ果皮の廃棄層が累積しており、クリ果実がジャーフードとして利用されていたものと考えられる。こうした多量のクリ果皮からなる廃棄範囲は短期間の集中的な加工の結果と推察される。さらに、トチノキ種皮やヒエ果実も出土し、日常的に利用されていた可能性が指摘されている。こうした植物利用とコイ科やサケを対象とした河川漁撈との組み合わせが青田遺跡の生業の基本と考える。

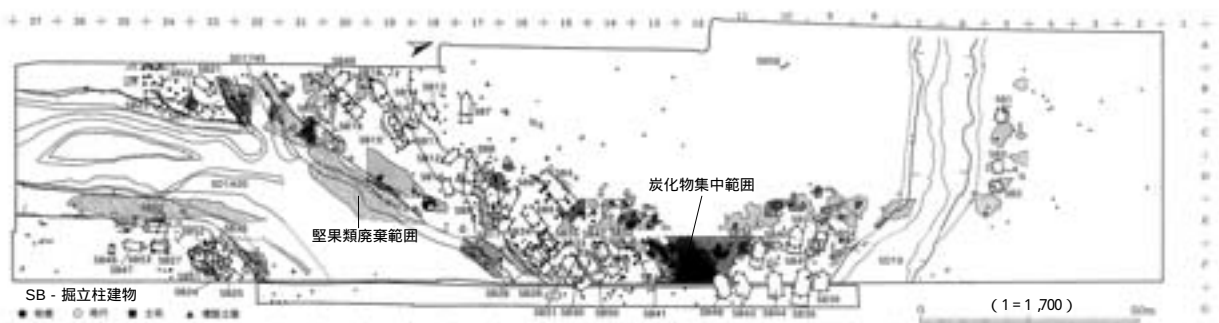
県内の堅果類出土遺跡をみると、御井戸A遺跡ではトチノキ種子を「主食」とする食生活が推定された〔前山1996〕。しかし、花粉分析によればクリが多産するほか、木柱根のすべてがクリ材であることから、青田遺跡と同様にクリ果実の利用率が本来高かったことが推測される。そして、クリ・トチノキの花粉が多産する遺跡が多いことから、これらの林を集落の周囲に人為的に備えていたことも視野に入れる必要があろう。また、栽培植物の利用については、青田遺跡でヒエの利用が指摘されたものの、検出遺跡が少ない。イネの利用については、プラントオパール分析により新発田市村尻遺跡・長畑遺跡・長岡市藤橋遺跡で晩期後葉の土器胎土からイネが検出され、稲作が導入された可能性が指摘されている〔外山・中山2001〕。しかし、稲作関連遺構が検出されていない現段階では詳細は不明といわざるを得ない。むしろ、堅果類利用を主体として、集落の立地に応じた狩猟や漁撈を組み合わせる生業の姿が想起される。そして、越後平野の各立地の集落が、石材・石器、あるいは特定の食料などを河川交通によって流通させるネットワークが集落経済を支えていた可能性を検討すべきと考える。生業を検討するには、各立地における生業を明らかにすることが重要である。



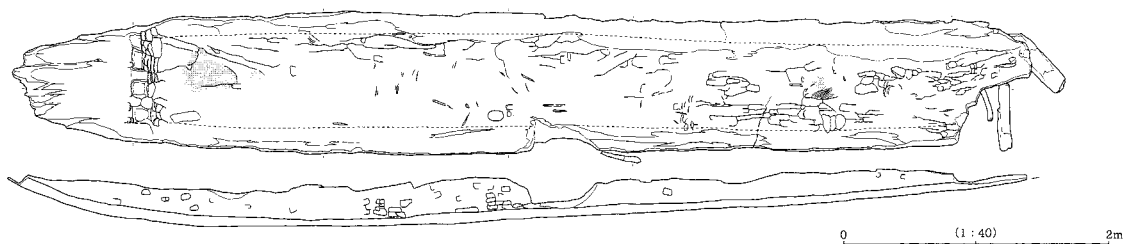
No.	遺跡名	所在地	時期	クルミ	クリ	トチノキ	ドングリ	ハシバミ	ブナ	カヤ	サンショウ	ヒシ	モモ	球根	アブラナ	マメ	イネ	オオムギ	植物珪酸体分析
1	西倉	川口	縄文前期	△															
55	北野Ⅰ(下層)	上川	前期		●	●													×
2	布目	磐	前期前葉	△															
3	新谷	磐	前期前葉	△	○	△													
4	藤原	磐	前期前葉	△	△														
5	万庵寺林	塩沢	前期後葉	△	△						△	△							
6	嶋屋町	柿崎	前期後葉		○														
7	大武	和島	前・中期	○	△	●													
8	大沢	磐	中期前葉	△	△		△					△							
9	桑原	磐	中期前葉	△	△	▲	△				△	△							
10	道多	妙高	中期前葉	△	△	△													
11	大イナバ	名立	中期前葉		○						△								
53	和泉A(下層)	中郷	中期前葉	△		●													×
12	山屋敷Ⅰ	上越	中期前～中葉	△															
13	雪の貝塚	金井	中期前～中葉	△															
14	上草野E	新発田	中期中葉	△	△						△								
15	ツベタ	安田	中期中葉	△	○	△								△					
16	岩野原	長岡	中期中葉	△	○	△													
17	飯島	新井	中期中葉		○														
18	城之腰	小千谷	中期中葉		○	△													
19	清水上	堀之内	中期中葉	△		▲	▲												
20	居平	堀之内	中期中～後葉	△															
5	万庵寺林	塩沢	中期中～後葉	△	△		△		△										
21	八反田	津南	中期中～後葉	△	△										○				
22	沖の原	津南	中期中～後葉	△	○	△	△												
23	中道	長岡	中期後葉	△			△												
24	水上	大和	中期後葉	△															
25	宮下原	大日町	中期後葉	△															
26	反里口	金井	中期後葉		△														
27	長峰	吉川	中期後葉	△	△														
28	大貝	新井	中期後葉	△	△														
29	横溝	両津	中期後葉		○														
42	金塚	加治川	後期		△														
23	中道	長岡	後期			○													
5	万庵寺林	塩沢	後期前葉	△	△														
18	城之腰	小千谷	後期前葉	△	△	△	△	△								△			
23	中道	長岡	後期前葉		△	○													
30	黒瀬	明日	後期前葉		△	△													
31	分谷地A	藤川	後期前葉	△	△	△													
32	上ノ原	磐	後期前葉	△	△														
33	頼立	三島	後期前葉	○	△	○	△												
34	柳古新田下原A	大和	後期前葉	△															
35	原田B	十日町	後期前葉		△														
21	八反田	津南	後期中葉												△				
36	藤島	分水	後期中～後葉	△															
37	元屋敷	朝日	後期後葉	△		●	○	●											
38	村尻	新発田	後期後葉	△	△	△	△												
39	寺前	出雲崎	後期後葉			△													
40	刈羽大平	刈羽	後期後葉			▲	●	▲											
41	布場平D	堀之内	後期後葉			○													
54	道雄	荒川	後期後葉	△	▲		●												
56	三仏生	小千谷	縄文期～晩期																×
43	群々入製鉄	和島	後～晩期		○														×
60	野地	中条	後期中葉～晩期前葉	○	○	●	○												
38	村尻	新発田	晩期	△	△	△													
39	寺前	出雲崎	晩期			△													◎土
44	正部ヶ原A	津南	晩期前葉	△		△													
45	藤原寺	津川原	晩期前葉	△	○														
46	寺地	青森	晩期前～中葉	○		△	▲	△											
47	川船河	田上	晩期中葉	△	△			△											
48	横峰A	安田	晩期中葉	△															
49	上野原	三条	晩期中葉	△	△														
50	青田	加治川	晩期後葉	○	○	●	○	▲	○		○	△	△						×土
51	鳥屋	島津	晩期後葉	△	△												△	△	×土
52	御井戸	磐	晩期後葉	○	△	●	○	●	○		△	△							◎土
57	藤島	長岡	晩期後葉							△									◎土
58	長峰	長岡	晩期後葉																◎土
53	和泉A(上層)	中郷	晩期後葉～弥生前期																◎土
59	頼立	黒崎	晩期後葉～弥生前期			▲													◎土

○=多量 △=少量 ●=花粉多量 ▲=花粉少量 ◎=イネの珪酸体検出 ×=イネの珪酸体検出せず ±=土器胎土分析

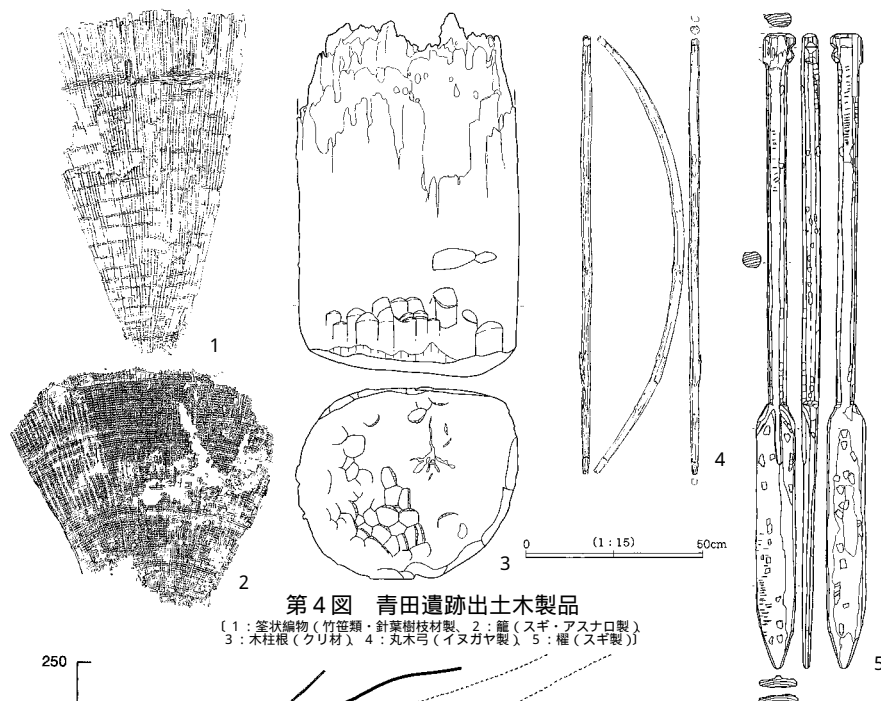
第1図 新潟県における種実出土・植物珪酸体分析実施遺跡
(前山精明1999「植物利用」『新潟県の考古学』高志書院に追加)



第2図 青田遺跡遺構配置図



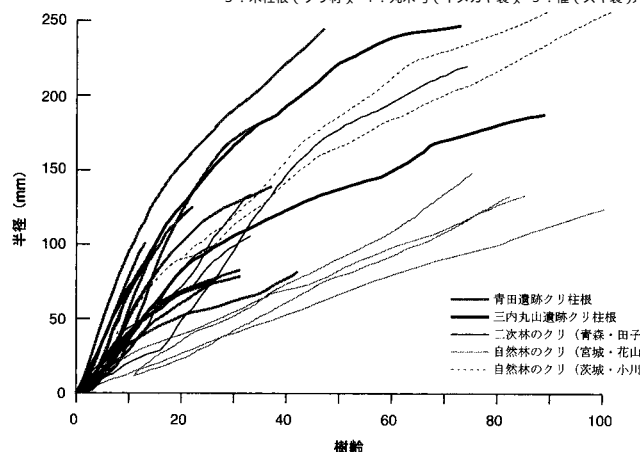
第3図 青田遺跡出土丸木舟（トチノキ製）



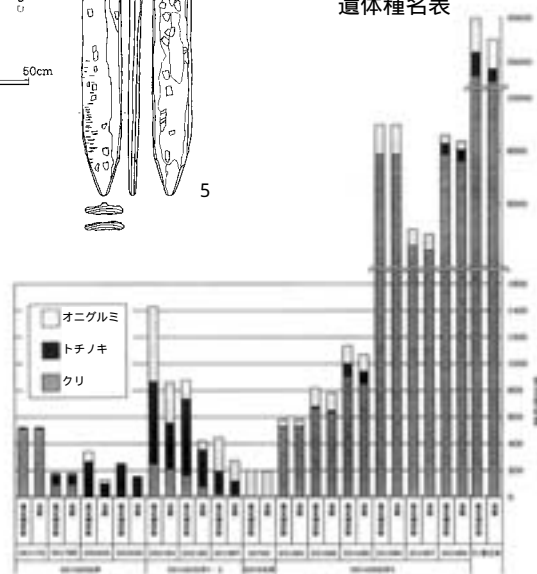
第4図 青田遺跡出土木製品
 (1: 笠状編物(竹笠類・針葉樹材製)、2: 鉢(スギ・アスナロ製)
 3: 木柱根(クリ材)、4: 丸木弓(イヌガヤ製)、5: 櫂(スギ製))

貝類	カラスガイまたはヌマガイ?
魚類	シジミ類
	サケ科
	ニゴイ属?
	ウグイ属
	フナ
	コイ?
	タイ科
	硬骨魚類
爬虫類	ヘビ科
鳥類	ガンカモ科
	カモメ科
	小型鳥類
哺乳類	アナグマまたはカワウソ?
	ニホンオオカミ?
	ニホンシカ
	海獣
	ヒト?

第1表 青田遺跡出土動物遺体種名表



第5図 木柱根のクリおよび二次林と自然林に生育する現生のクリの生長曲線の比較



第6図 青田遺跡、S1層期出土堅果類の指定個体数
 図表はすべて荒川ほか2004『新潟県埋蔵文化財報告書第133集 青田遺跡』新潟県教委・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団から転載